

TPP 交渉に係る日韓予備協議終了後の鶴岡首席交渉官記者会見概要

日時：3月6日（木）12：00～12：13

場所：中央合同庁舎4号館 12階 1211会議室

記者：韓国からどのような要望があったのか。

鶴岡首席交渉官：韓国は国内で TPP 参加の是非について検討している模様であり、その検討のために既に TPP 交渉に参加している 12 か国と予備的な協議、というか情報収集を行っており、我が国が時間的にたまたま最後の 12 か国目ということで、日本に先方のウ・テヒ次官補が出張し、2 時間程韓国側の関心について聞いた。韓国としては日本で 12 か国からの見解の聴取と情報収集を一巡したので、それを持ち帰って今後韓国側としてどう対応するかを検討していくのではないかと。

記者：正式な参加表明の時期などに言及はなかったのか。

鶴岡首席交渉官：韓国側は検討途次の状況なので、今後の日程的なことやどのような決定的に至るかも含め、何ら確定的なことは聞いていない。

記者：韓国が正式に参加することになった場合、日本としてこういった要求をする予定だといったことは伝えたのか。

鶴岡首席交渉官：まだ正式な参加決定を韓国政府としてはしていないと先方から説明があったので、参加表明を前提とする議論は今回はしていない。他方、日韓の間には TPP の有無にかかわらず経済関係はあるので、そういった経済貿易に関する日韓間の課題を進めることが必要であることは新しい話ではなく、両国間で進めていく課題だと思っている。

記者：車や工業品の関税引き下げについては話したのか。

鶴岡首席交渉官：今回は交渉をするために日韓で会談したわけではないので、具体的な品目や交渉めいたことをする機会ではない。今回の協議は韓国側が今後の国内の TPP 参加に向けた議論をどのように進めていくべきかについて、TPP 参加国と予備的な協議を行うという位置づけなので、各国との交渉の前段階であり、事前の交渉のために来ているわけではない。また、我々もそういうつもりで韓国側と協議をしたわけではない。TPP に参加する国は、交渉参加前に各国からできる限り情報収集をしている。我が国も昨年の TPP 交渉参加前に各国を訪問するなどして情報収集しながら日本国内の議論を進めていった経験もあるので、今韓国が行おうとしていることは我々としても理解できるところだが、その過程で交渉するという状況にはない。

記者：先方が最も興味を示していたことは何か。

鶴岡首席交渉官：TPP 交渉が今後どのような進み方をしていくのか、記者の皆さんや私の関心と一致しているが、今後の交渉の進め方やどのように進んでいくかの時期的なことについては交渉を継続し、その結果によるものなので、確たることを誰も言える状況にはない。また韓国側にもそのように回答している。

記者：韓国が TPP 交渉に参加するためには今の参加国の承認が必要となるが、韓国を受け入れるかという視点で協議に臨んだのか。また今日の協議は韓国を受け入れるための判断材料となるのか。

鶴岡首席交渉官：手続き的に、日本が経験したように TPP 交渉に仮に参加することを韓国政府が公式に決定したとしても、それをもって韓国政府の交渉参加が決まるわけではない。既に交渉に参加している国々が新たな参加国の交渉への参加を認めるかどうかを各国それぞれが判断できる仕組みになっている。仮に TPP 交渉参加の正式表明がなされれば、各国がそれを踏まえてどう判断するかを検討することとなる。現時点では、今日の協議を通じて韓国側から正式な参加表明をするかしないかも含めて確定的な見解の表明は受けていないため、我が国として先取りして様々な決定をしたり、立場を明らかにすることは適当でないと思う。

記者：先ほど言及があった TPP とは関係なく日韓間に存在する課題とは具体的にどういったことか。

鶴岡首席交渉官：日韓間には非常に幅広い大きな貿易・投資量があり、非常に近い経済関係を持っており、お互いの経済にとって大事な貿易・投資関係があると認識している。その中で個別具体的に課題を上げるまでもなく日韓間で継続し、解決を要する課題は十分認識されているので、今日は交渉を行う場ではないがせつかくの機会なので、日韓の課題について TPP と直接関係があるかは別としても、それはそれとしてお互い進めていく努力をしようという一般的な見解の表明を行った。

記者：TPP 交渉の中身について具体的に説明を求められることはあったのか。

鶴岡首席交渉官：外にいる国は情報になかなか触れることができないので、一般的に TPP 交渉の内容について強い関心を持っていることは伺えた。一回予備的な接触を持ったところだが、2 時間弱の大枠の話をしたのに留まっているので、韓国側の要望があれば先方の情報提供要請にどう対応するかは我々として検討していく。具体的な課題、項目、日程について、今後の作業として決めたことはない。今回の協議は韓国側の国内的な作業を行うために、TPP 交渉に参加している 12 か国と協議をし、できる限りの情報収集を行うためのものなので、まだ日韓の TPP を巡る協議というまでは至っていない。その前やそのもっと前の段階と位置付けてもよいのかもしれない。

記者：TPP に関わらず日韓の経済問題に話が至ったとのことだが、その中で工業品の引き下げの話はあったのか。また立場を明らかにしなかったとのことだが、日本として参加を歓迎するといったニュアンスのことを話したのか。

鶴岡首席交渉官：個別具体的な品目の交渉を行う用意をして韓国側と接触をしたわけではないので、相手側も当方も個別具体的な品目、分野について交渉めいた話はしていない。大きな枠組みで言えば、TPP はアジア太平洋全体、APEC エコノミー全体が参加することを目指して行っている交渉なので、韓国が参加に意欲を持っていること自体は日本としてもよいことだと思う。そういったことが TPP で要求される水準や韓国側の対応に裏打ちされる事態となってくれば日韓の話し合いも直接 TPP を巡って更に行われることになるだろうと思う。現時点で私が理解しているところでは、韓国はそうなところまで判断をするに至っておらず、現在は情報収集の状況だと思っている。

(以上)